

特定非営利活動法人 東海自然学園
平成 28 年度 総会議案書

日時：平成 28 年 6 月 15 日（水）10 時
会場：北生涯学習センター

議事次第

- 1、開会式
- 2、代表理事挨拶
- 3、議長選任
- 4、審議事項
 - 第 1 号議案 平成 27 年度事業報告の件
 - 第 2 号議案 平成 27 年度収支決算報告の件
 - 第 3 号議案 平成 28 年度事業計画の件
 - 第 4 号議案 平成 28 年度収支予算計画の件
 - 第 5 号議案 平成 28 年度役員選任の件
- 5、質疑及び討論・採決
- 6、閉会

<第1号議案>

平成27年度事業報告

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

【平成27年度方針】

科の協働事業に挑戦し、多くの力と連携で学園全体を盛り上げる。

各スタッフが今年度方針を念頭に活動し、いくつかの事業を科の協働で実施することができた。科や部だけでは限界があるが、協働で実施することで可能性が広がり、良い結果が生まれた。

- 新規事業科＋森林公園整備科→公益財団法人イオン環境財団助成金への申請が通り来年度実施。
- 環境教育科＋総務・渉外→人と自然の共生国際フォーラムにてワークショップ出展し盛況。
- 広報＋環境教育科・自然観察科→ブースでのチラシ配布や、行事の新聞掲載などで広報力アップ。

① 自然活動リーダーの養成講座事業

- ◆ 高等科、基礎科ともに合宿時の宿内で転倒（転落）事故があり、けが人がでてしまった。開校以来無事故だったため、今回の事故を機に事故の原因や対処法、事故予防策などを徹底的にスタッフ間で議論を重ねた。また「救急法研修」も開き安全管理への意識を高めた。
- ◆ 学園祭は初めての会場「愛・地球博記念公園」での開催となった。初めてということで、下見や道具の調整などに時間が必要だったが、広いスペースを使用でき、また充実した備品を使用することができるという点で評価が高かった。

東海シニア自然大学 講座部

■基礎科

花組31名、星組30名の受講生でスタート。合宿・学園祭・修学旅行を含め、全30回の講座を実施した。

◇実施日

- ・ 花組 第1・第3火曜日
- ・ 星組 第2・第4火曜日

◇担当

- ・ 花組 スタッフ4名、アシスタント2名 (スタッフ1名、途中退任)
- ・ 星組 スタッフ3名、アシスタント2名

◇修了者・皆勤者数

- ・ 花組 29名 ◎1年間皆勤6名
- ・ 星組 26名 ◎1年間皆勤6名

◇資格取得者（自然観察アドバイザー）

- ・ 花組（10名） ・ 星組（11名）

◇内容報告

- ・ 合宿時、活動終了後の宿内で転倒事故があり、1名負傷（額の打ち身）。スタッフの適切な対応により、救急搬送され病院にて処置を受けた。（当夜に宿へ戻ることができた。）
- ・ 合宿時の宿泊先である「おんたけ休暇村」が耐震工事中で宿泊ができなかった為、今年度は初めての場所（駒ヶ根高原）での合宿となった。事前に何度か下見をしていたため、当日は問題なくスムーズに進行することができた。（内容もほぼ例年通りで実施）
- ・ 「キノコ」の講座は、夏の方がキノコは多いとの講師の助言があり10月から9月へ、「干潟の野鳥」の講座は、より野鳥の種類が多い冬の時期への変更を提案した。

- ・ 委員会活動はそれぞれのリーダーを中心にまとめ、様々なアイデアの中で目的を達成した。

【企画委員会】

- ・ **花組** 〈日帰り企画〉 9/29 アクア・トト・ぎふの見学・懇親会 (21名参加)
〈修学旅行〉 高山市街散策、クラフト体験、内藤葉博物館の見学など (27名参加)
- ・ **星組** 〈日帰り企画〉 9/8 定光寺自然休養林の観察会・懇親会 (24名参加)
〈修学旅行〉 静岡県森林公園でのガイドウォーク、浜松城見学 など (25名参加)
※森林公園内でイノシシが人を襲う事件に遭遇したが参加者は全員無事だった。

【観察記録委員会】

- ・ 両クラスともに個人の観察記録を立派な冊子に仕上げ、報告会にて発表した。

【学園祭委員会】

両クラスともにクラス全体で取り組み、ステージ発表、展示、(ワークショップ)に挑戦した。ステージ発表では歌、クイズ、朗読、劇、研究発表など、様々な切り口で自然をテーマにした発表があり、学園祭を大いに盛り上げた。また、星組のワークショップには時間いっぱい参加者が集まり、大好評だった。

- ・ **花組** 〈ステージ〉『できることから始めよう』班毎にテーマを決め様々な方法で発表。
〈展示〉『植物のタネ、実』皆が様々な場所で集めたものを見やすく名前入りで展示。
- ・ **星組** 〈ステージ〉『野に出れば、自然はワンダー・フル』班毎の視点でクイズや劇を発表。
〈展示〉『初めての植物スケッチとクラフト』講座時に作成した全員の作品を展示。
〈ワークショップ〉『秋色のしおりを作ってみませんか』押し葉を使ったしおり作り。

■高等科

37名の受講生でスタートし合宿・学園祭・修学旅行を含めて全30回の講座を実施した。

◇実施日 金曜日

◇担当 スタッフ5名

◇修了者数

- ・ 35名 ◎2年間皆勤者(7名) ◎1年間皆勤者(10名)

◇資格取得(自然観察上級アドバイザー)

- ・ 18名

◇実施内容

- ・ 合宿時、活動終了後の宿内で階段転落の事故があり、1名負傷(両手首骨折)。スタッフ付添いのもと救急搬送され処置。その後入院された。(休学)
- ・ 前年度の見直しや提案により、今年度は入学式前にオリエンテーションを実施。基本事項の再確認を行った。
- ・ これまでの受講生の声やスタッフの提案により下記の講座を追加、変更した。
 - ①「植物を知る③」海浜植物の生態(講師:浜島繁隆) ※新しい講座として追加。
海浜というこれまでにないフィールドでの植物観察は新鮮で学びも多くあったが、夏の実施だったため、暑さが問題だった。来年度は時期の変更を考える。
 - ②「河川を知る①」カメを中心とした多様な生きもの
フィールドや会場を変更。講師の勤務する大学付近の河川と大学構内での講義とした。
- ・ 委員会はその委員会も熱心に取り組み、それぞれの目的を達成することが出来た。

【企画委員会】

- ・ (日帰り企画) 9/17(木) 木曾川昼鵜飼の見学 (27名参加)
- ・ (修学旅行) 伊勢神宮横の森にて照葉樹林の散策 他 (29名参加)

【観察記録委員会】

- ・ 全体テーマ『自然と共にもう一步』を掲げ、班ごとにまとめた。
 - ◆A班) 伝えよう自然のおもしろさ
 - ◆B班) 自然ともっと楽しもう
 - ◆C班) 伝えよう自然の魅力
 - ◆D班) 自然・太陽・仲間たち

【学園祭委員会】

- ・〈ステージ〉『身近な自然から学ぶこと』劇や歌などで様々な種の特徴を発表。
- ・〈展示〉『身近な自然から学ぶこと』外来種について調べたことを写真やボードで展示。
- ・〈ワークショップ〉トチの実アクセサリ・マツボックリやドングリの工作

■カリキュラム選択科

今年度は高等科受講生が 37 名であり、選択科希望者を含め 40 名を最大人数としているため、選択科受け入れは最大 3 名。人気講座では抽選し落選者もあった。各参加人数は以下の通り。

- ・「湿地を知る」北山湿地 2 名
- ・「植物を知る①」海上の森 2 名
- ・「植物を知る③」鬼崎海岸 3 名
- ・「河川を知る①」愛知学泉大学 1 名
- ・「河川を知る③」岐阜大学 3 名（抽選）
- ・「地質めぐり①」名古屋城 2 名
- ・「地質めぐり②」幸田・蒲郡方面 1 名
- ・「インタープリテーション①」東山動物園 3 名（抽選）
- ・「身近な哺乳類」白川村・大窪沼 3 名
- ・「中部の植物観察①」森林公園 1 名
- ・「中部の植物観察②」飯田市阿智村 1 名
- ・「どんぐりを知る」豊田市自然観察の森 1 名
- ・「森の野鳥の学習」豊田市自然観察の森 1 名

■専修科

◇担当 3 名

◇実施内容

- ・計画通り、合計 6 講座、延べ 11 日の講座を開催した。（内宿泊講座は 2 回）
- ・前年に比べ、3 講座の内容を大幅に変更した。
- ・受講者は延べ、45 名。内年間通期受講者は 14 名。
- ・延べ定員 180 名に対し、受講生は延べ 157 名。出席率 87%（前年 92%）
- ・通期受講生の中の特定の方の出席率が低かった。
- ・残念ながら、竹細工の講座で受傷事故が発生、再発防止を図る。

広報

◇担当 4 名

◇実施内容

- 元旦に配達される中日新聞に広告を掲載。（2 部テレビ欄 1 面）
→反響は大きく多くの問い合わせや申し込みがあった。
- 中日新聞や朝日新聞の行催事案内欄への投稿も何度か申請し、6 回掲載された。
- 体験入学も前年度同様に 2 回開催。（1/13・2/10）両日とも 24~25 名の参加があり、体験入学後に入学された。
- 1 月 19 日には申込者が定員（70 名）を超え、キャンセル待ちが 10 名となった。

【新しいことにも多々挑戦し、結果を出した】

- ① 広報研修会に 2 名参加。「広報サポート隊」「新パンフレット作成」のきっかけとなる。
- ② 13 期募集パンフレットを 5,000 部増刷し 20,000 部作成した。
- ③ 「サポート隊」を立ち上げ、3 名の応募があった。初めてのサポート隊だが、一年を通して積極的に関わって頂き、前向きな意見、新しいアイデアなどで、当学園の広報に新しい風が吹き込まれた。
- ④ ホームページの編集は専門家に 1 日指導頂き、その後は担当スタッフで管理することとなった。
- ⑤ 郵便局 10 カ所でのパンフレット配置に挑戦し、1 名の応募があった。（8/6~9/5）
- ⑥ 他団体の会報誌への進出として、日本自然保護協会 NACS-J の会報誌「ネイチャーナ

- ビ)に天白公園観察会の案内を10月から掲載していただけるようになった。
- ⑦ 新期生募集パンフレットではなく、学園の知名度アップのための新パンフレットを(1,000部)を作成した。※費用は研修主催側が負担
 - ⑧ イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に「マックスバリュ有松駅前店」「イオンタウン有松」「イオンリテール・ナゴヤドーム前店」に登録完了。4月より開始。
 - ⑨ 代表理事の紹介文が完成。来期に向けて投稿するばかりの準備ができています。

② 普及啓発事業

環境教育部

■環境教育科

◇担当 5名 (1名途中退任)

◇科員 31名

◇目的

自然の仕組みや魅力、楽しさや大切さを伝える。

◇今年度の年間目標

- ・目標① 技術や知識を高め合うため、講習会やアイデア会議などを積極的に取り入れる。
- ・目標② クラフト以外の「伝え方」に挑戦する。

◇実施内容

- ・定例活動・・・19回

(定例活動を毎月1回から2回に増やした→第1・第4水曜日)

◇年間活動実績

【参加した受託事業や行事】

- ・戸田川緑地「花まつり」 (5/4月～5/5火)
- ・大曾根商店街七夕まつり (7/24金～7/26日)
- ・戸田川「夏まつり」 (8/22土～8/23日)
- ・戸田川「秋まつり」 (10/10土～10/12月)
- ・人と自然の国際フォーラム (10/24土) *総務・渉外科への協力
- ・なごや環境大学「共育講座」 (10/14・10/26・11/11・12/9)
- ・船方小学校トワイライト (12/12土)
- ・名古屋市科学館 (3/27日)

【実施した研修】

- ・日本赤十字社 救急法講習会
- ・りんご収穫ボランティア&学習会
- ・「バランスとんぼ」講習会

◇目標の達成度

●目標① 技術や知識を高め合うため、講習会やアイデア会議などを積極的に取り入れる。

毎回、定例活動前に各個人の新作発表や、旅先で見つけた面白い工芸品などの紹介などを行い、個々の技や情報を交換することで、互いに刺激を与え合う事ができた。また、講習会や研修を初めて取り入れたことで、自分たちの知識・技術向上ができ、自信に繋がった。

●目標② クラフト以外の「伝え方」に挑戦する

メンバー間での議論の中に「伝えたい」という想いが高まっており、「なごや環境大学」や「トワイライト」「科学館受託事業」などワークショップ型で「伝える」ことができる事業に積極的な挑戦することができた。やはりクラフトが得意分野であるため、クラフト以外の手法で「伝える」よりも、クラフトを通して「伝える」企画が主となった。

◇今年度の前進面

- ・昨年度の経験から生じた意見を取り入れ、毎月1回の定例活動を毎月2回に増やし、年度初めに具体的な年間計画を立て、ほぼその通りに進める事ができた。

- ・ 定例活動日を増やしたことで活動に余裕ができ、新作検討会や研修会、道具の手入れなどを実施することができた。
- ・ 昨年度はできなかった、「なごや環境大学」「トワイライト」など、イベントではなく「伝える」を主目的とした事業に挑戦することができた。

◇今年度の問題点

- ・ 初めて事故を起こしてしまった。(野外イベントでの参加者負傷。救急車対応) 事故後、起きた事故をしっかりとメンバーで分析し、その原因を突き止め、今後の対応策を考え、それを実践できていることは、大きな進歩だったともいえる。
- ・ 定例活動日には、予定通り作業が進み人数的にも問題はないが、本番では人手不足を感じる。メンバーにも何度となくイベント本番への出席をお願いしているが、土日ということもあり、メンバーの人数が増えない。(人数が少ないと安全管理にも問題が発生するため、今後の課題となる)
- ・ 昨年度より「倉庫・作業場」を探しているが見つからない。生涯学習センターを毎回使用しているが、使用料金や予約の手間、道具や材料の保管限界があるため、「倉庫・作業場」の確保を要望する。

③ 調査研究事業

研究部

■自然観察科

レギュラーコース4年卒業制を導入し、「レギュラーコース(在籍4年以下)」と「キャリアコース(在籍5年以上)」に分割してそれぞれに運営。

レギュラーコース

- ◇実施日 第2・4月曜日
- ◇担当 3名
- ◇会員数 42名
- ◇活動内容

- 毎回の参加率も高く月2回の活動が予定通り実施できた。
- 「自然観察科レギュラーコース運用要領」を設定し、運用要領を明確にした。
- 四季に亘る定点観測の実施：海上の森を、春夏秋冬で観察した。
- 学園祭対応では、「学園祭委員」6名を選任し主体的に活動していただき、パネル展示や紙芝居の発表などに全員参加で対応できた。

キャリアコース

- ◇実施日 原則として第2・4月曜日
- ◇担当 1人
- ◇人数 19名
- ◇実施内容

- 年間活動日数：26日
 - ◆フィールド【12日】、◆座学【1日】、◆天白公園観察会(下見含む)【8日】
 - ◆受託講座(下見、リハーサル含む)【5日】
- 主なフィールド
七宗、阿寺溪谷、小幡緑地、陶史の森、横谷溪谷、朝熊山、富士見台高原 他
- 一般対象天白公園自然観察会(天白公園整備クラブと共催)を4回実施。
- 基礎科の講座を受託
 - ・テーマ「冬の森の観察」 ・場所：築水の森、春日井少年自然の家
 - ・実施日：2/2(花組)、2/9(星組)

◇総括

- ・新たにメンバーが6名増えたが比較的小回りを利かせた動きができた。

④政策についての企画提案事業

事業部

■新規事業科

◇担当 4名

◇実施内容

- 独立行政法人環境再生保全機構主催・なごや NGO センター企画/運営の研修に参加。全4回（講習3回・研修1回）にて、下記への理解を深める事ができた。
 - ①助成、委託事業への申請のコツ
 - ②寄付、会費の収集法
 - ③企業との連携
- 公益財団法人イオン環境財団の助成金に申請。「森林整備」の分野で選出され、50万円の助成を受けることが決定した。

交流部

◇担当 4名

【OB ツアーの実施】

- ・実施日：7/16～7/17（1泊2日）
 - ・参加者：26名
 - ・バス旅行、宿：いずみ荘（北杜市）
 - 1日目 オオムラキセンター、サントリー白州工場
 - 2日目 八ヶ岳自然ふれあいセンター（川俣川溪谷）
- 全員が安全にプログラムを楽しむことができた。また、2日間雨だったにもかかわらず、事後のアンケートでは良い評価をいただいた。
- アンケートで全員が目的（楽しみ）達成できた、OB間での交流が出来たとの回答。

【クラブについて】

- ・ 新規クラブが発足した。→「湿地クラブ」会員数30名
- ・ 6/10クラブ長会議を開催。各クラブ長との交流ができた。その際、クラブ長が抱えている悩みや問題点なども把握できた。
- ・ クラブ長会議にて各クラブにて無断欠席者の対応に困っていた為、その対策として、クラブ登録後に無断欠席が3回以上続いた場合は退会したと判断して以後の連絡はしないと進路申請書の説明文に添えることを決めた。28年度より実施。
- ・ クラブ長会議にて各役員への連絡に苦労があることを知り、その対策として、今年度より基礎科の進路申請書にはメールアドレス記入欄を設け、そのコピーを各クラブ長に渡した。
- ・ 毎年登録人員が増加するため、今後の課題として新規クラブの立ち上げが急務。

【各クラブの活動報告】

【野鳥クラブ】

○現登録36名 会費1,000円/年

○活動方針

- 探鳥会は年に4回開催を計画する。
- 内容は探鳥観察を中心とする企画に、植物を楽しむ散策を織り交ぜる。
- 探鳥会には適宜案内人を依頼する。
- 日本野鳥の会（愛知県支部）定例探鳥会にグループ参加する企画を織り込む。
- 秋の学園祭にクラブとして出展する、そのための準備を夏ころから始める。
- 懇親会を計画して会員の親睦・交流を深める。

○本年度の活動内容

5/10「海上の森」 11/18「学園祭ブース出展」 11/25「ワイルドネイチャープラザ」
1/30「勅使池」 3/10「平和公園」

【写真クラブ】

○現登録55名 会費1,000円

○活動方針

- 自然の景観・生物、これを取り巻く生活環境等を撮影し作品作りを楽しむ。
- 活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

○本年度の活動内容

4/11「春日井青少年自然の家」 5/13「金沢の古都撮影会」 5/15「パソコン教室」
6/18「入笠山湿原」 10/22「勉強会」 11/18「学園祭ブース出展・ワークショップ」
11/25「祖父江のイチョウ」 12/2「パソコン講座」 1/13「クラブ展の作品作り」
2/16～20 「第1回東海シニア自然大学写真クラブ展」

【自然体験クラブ】

○現登録84名 会費1,000円

○活動方針

- クラブ員が72名と多いが、年に5回の全体行事として5組の持ち回りで担当する。

○目標

- 様々な自然体験を通して自然に親しみ、会員相互の親睦を図り楽しむ。

○本年度の活動内容

6/12「西村自然農園」 9/12「犬山・鶯飼見物」 11/26「白鳥庭園・熱田神宮」
1/6「長久手温泉・色金山歴史公園」 3/16「中村公園・豊国神社」

【地質クラブ】

○現登録67名 会費1,000円

○活動方針

- 現地観察会にて、東海地方の地質の成り立ちを学ぶ。
- 現地観察会を年4回開催する。
- 夏季に博物館にて勉強会を開催する。

○本年度の活動内容

6/24 濃飛流紋岩と火道角礫岩の観察 8/28 プレートテクトニクスと火山の勉強会
11/18 学園祭ブース出展とワークショップ 11/19 根尾谷断層の観察、
1/6 木曾川 3/30 阿寺断層と河岸段丘

【植物クラブ】

○現登録77名 会費1,000円

○活動方針

- 楽しく、有意義で親睦を深めるクラブを作る。
- 年間7回の観察会を行う。

○本年度の活動内容

5/27「山門水源の森」 6/18「入笠山」 7/22「八島湿原（霧ヶ峰）」 10/29「御在所岳」
11/11「学園祭ブース展示」 11/30「海上の森」 3/30「とよたの森」

【植物アートクラブ】

○現登録20名 会費3,000円

○活動方針

- たくさんの絵を鑑賞し、絵を描きたいと気持ちを高める。
- 描きたいという気持ちを大切に、対象物（植物）をどのように表現したらよいか、それぞれ追求していく。
- 月ごとの課題に沿って作品を仕上げ、全員での作品鑑賞、講師の講評・助言を通じ、資質の向上・親睦を図っていく。

○目標

- 月ごとの課題に取り組み、それぞれのレベルアップを目指す。

○本年度の活動内容

4/17「親睦会・春の恵那路めぐり」 4/23「目標設定・モチーフの置き方、見方を再考」
5/28「デッサンを一本の線で描く」 6/25「葉の色を見えた通りに表現する」

7/23「平塗りのやり方」 8/27「ぼかしの方法取得」 9/24「ぼかしの結果」
10/22「花の複雑さの表現」 11/18「学園祭ブース出展」 11/26「葉の重なり表現」
12/24「立体ものを描く」 1/28「描き方を変えてみる・新年会」
2/25「小さな画用紙・大きい画用紙」 3/24「作品発表会・総会」

【ふふふキラキラクラブ】

○現登録49名 会費1,000円

○活動方針

- 活動の目的であります『ふふふ』の笑顔を持って会員相互の交流と親睦をはかり、『キラキラ』と輝く人生を見つけましょう。

○目標

- 「森・里・川・町・海」に関連して、食を通して楽しみ相互交流をはかる。
- 発表会：年に1回、会員の「ふふふ」結果を、自分だけで独占するのではなく、楽しみを会員相互に分ちあう。

○本年度の活動内容

初夏の1日「筑前琵琶の演奏の鑑賞」・秋の1日「名古屋港水族館を観る」
冬の1日「冬鳥の観察と冬の里山散策」

【自然句詠クラブ】

○現登録18名 会費1,000円

○活動方針

- 自然を愛で、観て感性を豊かにする。
- 17文字その感性を表現し、古来からの日本語の意味、深さを味わう。
- 句会・吟行・懇親会等を通してメンバー同士の親睦を高める。

○本年度の活動内容

- ①月1回句会を開催、(句会；各自3句持ち寄り、講評しあう)
- ②年4回吟行開催(現地に赴き3句作り、後句会を開く)
- ③歓迎会・忘年会・反省会を行い、親睦を深めた、
- ④28年3月に講師を招聘し、句会・反省会を実施、
- ⑤学園祭にブース出展、

【湿地クラブ】

○現登録16名 会費1,000円

○活動方針

- 観察湿地を一カ所決めて四季毎に4回観察会を行い、観察湿地の四季毎の変化及び動植物及び昆虫を観察する。

○目標

- 春日井市築水池周囲を観察場所とする、他に武豊町壺町田湿地・尾張旭市吉賀池の観察をする。

○本年度の活動内容

定点観察 春日井市少年自然の家築水の森

4/25「春の花」 10/15「秋の花・実・昆虫」 1/15「バードウォッチング」

3/29「早春の花」 8/2「武豊町壺町田湿地」 10/4「尾張旭市吉賀池湿地」

自然保護部

■森林公園整備科

平成27年度は整備地（8.2ha）の内C地区の森林整備活動を実践した。

◇活動日 第2・第4木曜日

◇人数 39名

◇活動内容 ●除伐 ●希少植物の保護 ●下草除去 ●枯葉・落葉整備
●ロープワークの学習 ●観察会 ●安全作業マニュアル完成

◇年間活動日 ●20日（延べ427名）

■瀬戸里山整備科

整備地1.5haの内、主に竹林部分の整備を行った。思いがけなく9月の活動日に発生した下腿骨折事故への反省から、事故対策、安全マニュアル等の整備と併せ、急傾斜地の整備から緩傾斜地での活動を行った。

◇実施日 第3土曜日、但し雨天の場合は、予備日第4土曜日

◇登録者 23名（22名でスタートし、2名の新加入者、1名の退会者あり。）

◇活動場所 瀬戸市曾野町

◇活動内容

- ① 竹林部分と里山部分があり、竹林部分の整備を行う。竹林部分にも枯れたコナラ等の大木があり、整備作業にチェーンソー等の作業は地主さん等へお願いをしている。
- ② 事故を経験したことから、竹林部分でロープワークによる、太い竹除伐の経験を積んだ。
- ③ 緊急時の連絡先一覧を作成した。今後も整備を継続する。
- ④ 活動報告書を作成する。⇒毎回作成中。今後も継続する。
- ⑤ ロープワーク、竹クラフトの実習を行った。
- ⑥ 学園祭への出展⇒一部科員による出展を行った。出展科員の増加を図りたい。
- ⑦ 12期生の体験者の受け入れを行った。9月19日2名

⑥その他目的を達成するために必要な事業

該当事業なし

＜第2号議案＞ 平成27年度収支決算報告

平成27年度(第9期)活動計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目	金額(単位:円)		備 考
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取入会金	0		
正会員受取会費	125,000		年会費
利用会員受取会費	1,053,000	1,178,000	年会費
2 受取寄付金			
受取寄付金	441,729	441,729	あいおい損保(30万円)、個人
3 受取助成金			
受取助成金	0	0	
4 事業収益			
自然活動リーダー養成講座事業収益	9,608,300		受講料、参加費等
普及啓発事業収益	451,305		受託料等
調査研究事業収益	0		
政策についての企画提案事業収益	0		
自然環境保全事業収益	0		
その他目的達成するための事業収益	0	10,059,605	
5 その他収益			
受取利息	2,372		
雑収入	0	2,372	
経常収益計		11,681,706	
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	3,437,600		
通勤手当	144,700		
法定福利費	540,932		
人件費計	4,123,232		
(2) その他経費			
講師謝礼金	1,609,000		
教材費	338,015		
会場費	451,398		
広報費	455,341		
リーフレット代	319,129		
講師交通費	78,430		
スタッフ交通費	1,386,800		
消耗品費	139,099		
諸会費	46,000		
家賃	650,000		事務所家賃
接待交際費	40,470		
水道光熱費	115,575		
コピー機維持費	48,941		
保険料	126,490		
通信運搬費	568,926		
雑費	190,777		
その他経費計	6,564,391		バス代(69千円)、
事業費計		10,687,623	
2 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	179,200		
人件費計	179,200		会計担当給与
(2) その他経費			
旅費交通費	870		
事務用品費	9,837		
租税公課	329,932		消費税等
支払手数料	70,664		税理士報酬等
雑費	992		
その他経費計	412,295		
管理費計		591,495	
経常費用計		11,279,118	
当期経常増減額		402,588	
III 経常外収益		0	
IV 経常外費用		0	
当期正味財産増減額		402,588	
前期正味財産額		7,313,869	
次期繰越財産額		7,716,457	

平成27年度(第9期)貸借対照表

平成28年3月31日現在

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目	金 額(単位:円)		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	18,849,285		
立替金	365,976		
前払費用	96,886		
未収入金	0		
流動資産合計		19,312,147	
2 固定資産			
資金	100,000		
固定資産合計		100,000	
資産合計			19,412,147
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	389,247		
前受金	11,289,000		
預り金	17,443		
流動負債合計		11,695,690	
2 固定負債			
借入金	0		
固定負債合計		0	
負債合計			11,695,690
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産額		7,313,869	
当期正味財産額		402,588	
正味財産合計			7,716,457
負債及び正味財産合計			19,412,147

平成27年度(第9期)財産目録

平成28年3月31日現在

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目		金 額(単位:円)	
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	現金手元有高	163,360	
普通預金	三菱東京UFJ銀行植田支店	7,176,645	
普通預金	ゆうちょ銀行	9,506,082	
定期預金	三菱東京UFJ銀行植田支店	2,003,198	
立替金	バス代等	365,976	
前払費用	次年度会場費等	96,886	
未収入金		0	
流動資産合計			19,312,147
2 固定資産			
資金	事務所賃借敷金	100,000	
固定資産合計			100,000
資産合計			19,412,147
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	3月分給与	241,800	
	3月分給与月分社会保険料	32,645	
	交通費等	114,802	
前受金	次年度分受講料、年会費、助成金	11,289,000	
預り金	源泉所得税、社会保険料	17,443	
流動負債合計			11,695,690
2 固定負債			
借入金		0	
固定負債合計			0
負債合計			11,695,690
正味財産合計			7,716,457

平成27年度(第9期)財務諸表の注記

特定非営利活動法人東海自然学園

1 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日、2011年11月20日一部改正NPO法人会計基準協議会)による

2 事業費の内訳

科 目	自然活動リーダー 養成講座	普及啓発事業	調査研究事業	政策についての 企画提案事業	自然環境保全 事業	その他目的達 成するための 事業	合 計
(1) 人件費							
給料手当	2,750,080	412,512	34,376	206,256	34,376	0	3,437,600
通勤手当	115,760	17,364	1,447	8,682	1,447	0	144,700
法定福利費	432,746	64,912	5,409	32,456	5,409	0	540,932
人件費計	3,298,586	494,788	41,232	247,394	41,232	0	4,123,232
(2) その他の経費							
講師謝礼金	1,549,000	60,000					1,609,000
教材費	252,514	83,158			2,343		338,015
会場費	357,798	93,600					451,398
広報費	455,341						455,341
リーフレット代	319,129						319,129
講師交通費	78,430						78,430
交通費	1,260,700	126,100					1,386,800
消耗品費	136,697	2,402					139,099
諸会費	36,800	5,520	460	2,760	460		46,000
家賃	520,000	78,000	6,500	39,000	6,500		650,000
接待交際費	32,376	4,856	405	2,428	405		40,470
水道光熱費	92,460	13,869	1,156	6,935	1,156		115,575
コピー機維持費	39,153	5,873	489	2,936	489		48,941
保険料	101,192	15,179	1,265	7,589	1,265		126,490
通信運搬費	455,141	68,271	5,689	34,136	5,689		568,926
租税公課	0	0	0	0	0		0
支払手数料	0	0	0	0	0		0
雑費	152,622	22,893	1,908	11,447	1,908		190,777
その他経費計	5,839,352	579,721	17,872	107,231	20,215	0	6,564,391
合 計	9,137,938	1,074,509	59,104	354,625	61,447	0	10,687,623
参考 (配布率)	0.8000	0.1200	0.0100	0.0600	0.0100	0	1.00

<第3号議案>

平成28年度事業計画

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

【平成28年度方針】

新しいスタッフが増えたことにより、各部署で積極的に新風を吹き込み、新しい事への挑戦を試みる。また、同時にこれまでに積み上げたものをうまく伝承する。

① 自然活動リーダーの養成講座事業

- ◆ 今年度より新たな組織として「講座部担当理事」を配置。これまでに培ってきた実績や経験を、新スタッフ陣に伝え、受け継いでもらうことを目的に、講座部担当スタッフのサポートをする。
- ◆ 今年度はできるだけガイドイヤホンを使わず、自然の中で講師を囲み、皆の協力で全員が耳を澄まして解説を聞くという、本来の自然観察の姿を大切にしていく方法を重視する。

東海シニア自然大学 講座部

■基礎科

- ・担当スタッフの連携を深め、連絡を密にし、充実した内容で安全に運営する。
- ・高等科へのアピールを工夫し、進学率を高める。

◇担当 8名 (+アシスタント4名)

◇人数 全70名 (2クラス)

◇実施日 年間30日間 (隔週金曜日)

◇計画内容

- ・年間カリキュラムの運営・進行・安全管理。
- ・学園祭に向けてクラスの取り組み。
- ・各委員会の活動支援。
- ・振り返りなど受講生の評価を参考に、カリキュラムの改善や見直し。
- ・記録、報告書の作成。

■高等科

- ・担当スタッフの連携を深め、連絡を密にし、充実した内容で安全に運営する。

◇担当 5名

◇人数 27名

◇実施日 火曜日 (不定期)

◇計画内容

- ・年間30日間のカリキュラムの実施。
- ・学園祭に向けて、クラスの取り組みを支援するとともに基礎科への支援。
- ・各委員会の活動支援。
- ・振り返りなど受講生の評価を参考に、カリキュラムの改善や見直し。
- ・記録、報告書の作成。

■カリキュラム選択科

- ・高等科受講生を含め40名を最大人数とし、それ以上の希望がある場合は抽選とする。

◇人数 9名

■専修科

- ・ 一部見直した年間カリキュラムを安全最優先で計画通り運営する。
- ・ 次年度に向けてカリキュラムの見直しを進める。

◇担 当 3名

◇定 員 20名（一部17名）

◇実施日 不定期

◇実施内容 年間6講座、延べ11日間のカリキュラムの実施。

- ①白山信仰の里、石徹白を観る・・・・・・・・・・・・・・・・・・1泊2日
- ②乗鞍&千石園地で学ぶ「高山・亜高山植物」・・・・・・・・・・1泊2日
- ③クモ&トンボの不思議な生態・・・・・・・・・・・・・・・・・・全2回
- ④東海地区の湿地の成立ちと植生・・・・・・・・・・・・・・・・・・全2回
- ⑤東海地区の2つの極相林：ブナ林とシイ・カシ林を訪ねる・・・全2回
- ⑥大人のための竹細工・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・全1回

広報

◇担 当 5名

◇方 針 積極的に新しい広報策を模索し、実施する。

◇目 標

- ① 様々な方法で、楽しみながら広報活動を実施することにより、第14期生70名の確保につなげる。
- ② サポート隊と連携し、多くの人の手で広く東海自然学園をPRする。

◇計画内容

- ① ホームページのブログとお知らせ欄を随時更新する。
- ② 募集パンフレットの発注を早め、設置場所を見直し開拓する。
- ③ メディアに投稿、取材依頼等積極的に行う。
- ④ 体験入学2回実施。
- ⑤ イオン・イエローレシートキャンペーン活動に登録参加する。
- ⑥ 14期生早期申込者（14名）へのフォロー。

② 普及啓発事業

環境教育部

■環境教育科

◇担 当 6名

◇人 数 35名

◇方 針

社会貢献することを目的とし、様々なインタープリテーション技術の取得、向上を目指す。また、利益を追及する事業のみではなく、利益につながらなくとも自身の向上や社会貢献価値のある事業を実施する。

◇今年度の目標

- ・ 目標① 数や種類を多くこなすことより「伝え方」に力を入れたワークショップを目指す
- ・ 目標② 自分たちの技術向上や興味を探究する時間を設け、新しい作品作りに繋げる

◇計画内容

定例活動は毎月2回（第2、第4水曜日）とし、その他下記の活動を計画している。

- 戸田川緑地公園行事
 - ・ 戸田川まつり 5/4（水）・5/5（木）
 - ・ 秋まつり 10/8（土）～10/10（月）
- 受託事業（北生涯） 6/4（土） 午前
- 環境デイ（子ども自然体験企画） 6/25（土） 午前
- 大曾根七夕祭り 7/29（金）～7/31（日）
- 救急法の研修 8/24（水） 午前
- なごや環境大学（下半期）
- トワイライト（船方小学校） 12/10（土）

③ 調査研究事業

研究部

■自然観察科

自然観察と自然に関する座学テーマについて、自分自身の学習意欲を高め、(リーダーとして)社会貢献することを目的に、それぞれのコースにて学習・研究・実践を行う。

レギュラーコース

- ◇担当 3名
- ◇実施日 第2、4月曜日
- ◇人数 44名（新加入：16名 キャリアコースへの転出：8名）
- ◇活動計画 座学：8回 フィールド：12回
 - ・ 班体制基本の活動で推進する。
 - ・ 「海上の森」を定点観察する。

キャリアコース

- ◇実施日 原則として第2・4月曜日
- ◇担当 2人
- ◇人数 26名
- ◇目標
 - ①レギュラーコースで学んだ経験を活かし、観察会の企画・運営等総合力の向上を図る。
 - ②学園の一つの組織としての認識を高め、学園活動に積極的に参画する。

◇実施事項

- ①新たに8名の参加者を迎え、年間26日の活動を実施する。
- ②年間4回、一般の方を対象とした「天白公園自然観察会」を継続開催する。
- ③基礎科からの受託講座「冬の森の観察」を、昨年が続いて築水の森で実施する。
- ④毎年増加する現行システムに対する抜本的な対応策を検討、提案する。

④政策についての企画提案事業

事業部

■新規事業科

- ◇担当 9名
- ◇目的 新規事業（助成金事業）を開拓し、学園の社会貢献活動に協力すると共に、収益改善に貢献する。

◇内 容

①助成金事業

- 公益財団法人イオン環境財団の助成金事業を滞りなく執行する。
- 他の助成金について、広く情報を集め人材育成を優先し助成を申請する。

②新規事業

- JAなごや年金友の会との関係を繋げ、対象者に視点を合わせた企画で再挑戦する。

③認定NPOの資格取得

- 資格取得に向けて具体的に動き、資格取得が可能であれば実行可能に繋げる。
(名古屋市市民活動センターへの相談→当学園の方針検討→実行)

交流部

◇担当 4名

◇年間目標

- OB会員の活性化、親睦を目的とした企画を考案し実施する。
- クラブが安全、健全に実施されるよう活動を把握し助言する。

◇実施内容

- OB旅行を企画実施する。
- クラブ長会議を開催する。(6月中旬)

◇各クラブの活動計画

●「野鳥クラブ」

◇クラブ長 小林 正典(9期) ◇登録人員30名 ◇会費1,000円/年

◇活動方針

- 探鳥会を年に4回開催を計画する。
- 内容は探鳥観察を中心とする企画に、植物を楽しむ散策を織り交ぜる。
- 探鳥会には適宜案内人を依頼する。
- 秋の学園祭にクラブとして出展する、そのための準備を夏ころから始める。
- 懇親会を計画して会員の親睦・交流を深める。

◇本年度の活動予定

5/15「藤前干潟」 11月「学園祭ブース出展」 12月初旬「日進市岩藤新池付近」
1月下旬「琵琶湖 湖北野鳥センター」 3月「名城公園」

●「写真クラブ」

◇クラブ長 嶋田 茂雄(9期) ◇登録人員53名 ◇会費1,000円

◇活動方針

- 自然の景観・生物、これを取り巻く生活環境等を撮影し作品作りを楽しむ。
- 活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

◇本年度の活動予定

4/13「スイトピアセンター」 5/11「御在所岳」 5/20「写真教室」
6/24「勉強会」 7/20「伊吹山」 9/29「関鍛冶伝承館」 10/12「勉強会」
11月「学園祭ブース出展・ワークショップ」 11/30「谷汲山」
1月～2月「雪明かりまつり」

●「自然体験クラブ」

◇クラブ長 長田 孝義(12期) ◇登録人員61名 ◇会費1,000円

◇活動方針

- 年4回の行事とし、5・4・3・2組の持ち回りで担当する。
- 基本の実施日を各季節の先頭月の第3木曜日とする。

◇目標

- 様々な自然体験を通して自然に親しみ、会員相互の親睦を図り楽しむ

◇本年度の活動予定

6/30「針江生水の里」 9/15「西村自然農園」 10/20「おっばら夢組合」
1月～3月「公共交通機関で行けるところ」

●「地質クラブ」

◇クラブ長 福岡 潔（8期） ◇登録人員67名 ◇会費1,000円

◇活動方針

- 身近な自然の成り立ちを観察する。

◇本年度の活動予定

- 観察会を4回開催する、(日時場所未定) 学園祭にブース出展する。

●「植物クラブ」

◇クラブ長 倉田 紀男（11期） ◇登録人員64名 ◇会費1,000円

◇活動方針

- 「とにかく楽しく、少し知的な好奇心をくすぐる観察会」を企画する。

◇本年度の活動予定

- 5月「八竜湿地」 6月「五色ヶ原」 7月「入笠山」 8月「城山」
9月「葦毛湿原」 11月「学園祭ブース出展」 3月「未定」

●「植物アートクラブ」

◇クラブ長 石橋 安男（10期） ◇登録人員17名 ◇会費3,000円

◇活動方針

- たくさんの絵を鑑賞し、絵を描きたいと気持ちを高める。
- 描きたいという気持ちを大切に、対象物（植物）をどのように表現したらよいか追求し、個々の技術力を高める。
- 月ごとの課題に沿って作品を仕上げ、全員での作品鑑賞、講師の講評・助言を通じ、資質の向上・親睦を図っていく。

◇目標

- 月ごとの課題に取り組み、それぞれのレベルアップを目指す。

◇本年度の活動予定

- 4月「デッサンの手順」 5月「野外でのスケッチ」 6月「デッサンの工夫」
7月「塗り重ね」 8月「ぼかし」 9月「ぼかし+重ね塗り」
10月「塗り残して白さを描く」 11月「筆のタッチ」 12月「立体感を出す」
1月「奥行き感を出す」 2月「花びらを描く」 3月「発表会」

●「ふふふキラキラクラブ」

◇クラブ長 清水 修(7期) ◇登録人員50名 ◇会費1,000円

◇活動方針

- 活動の目的であります『ふふふ』の笑顔を持って会員相互の交流と親睦をはかり、『キラキラ』と輝く人生を見つけましょう。

◇目標

- 「森・里・川・町・海」に関連して、食を通して楽しみ相互交流をはかる。
- 発表会：年に1回、会員の「ふふふ」結果を、自分だけで独占するのではなく、楽しみを会員相互に分ちあう。

◇本年度の活動予定

- ・初夏の1日「佐久島散策」・秋の1日「紅葉を観る」
・冬の1日「冬鳥の観察と冬の里山散策」

●「自然句詠クラブ」

◇クラブ長 石橋 信義（9期生） ◇登録人員20名 ◇会費1,000円

◇活動方針・目標

- 自然を愛で、楽しみながら5・7・5の俳句を作句する。
- 日本語の豊かさ、奥深さを研究し、俳句の面白みを深める。
- メンバーとの親睦を深め、エンジョイする。
- 健康促進は勿論のこと、脳・感性の活性化を図る。

◇本年度の活動予定

- ①月1回、句会を開催（年2～3回、講師を招聘）
②年4回、吟行を開催

③東海自然学園祭に参加・出展

④年1回、句集を作成・発行

●「湿地クラブ」

◇クラブ長 加藤 樽鋼（10期生） ◇登録人員37名 ◇会費1,000円

◇活動目標

- 森林公園植物園内の湿地（東海丘陵要素の植物・昆虫・鳥の観察）
- その他活動（高層・中間・低層各湿原の植物・昆虫・鳥の観察）

◇本年度の活動予定

5/10「春の花」 7月「夏の花」 9月「秋の花・昆虫」 11月「晩秋の植物」
1月「バードウォッチング」

⑤自然環境保全事業

自然保護部

■森林公園整備科

◇担当 3名

◇年間目標

第4次3カ年計画の2年目にあたり、「植生豊かな森づくりを目指す森林整備活動、学習、人材育成」を目標とし、今年度はB地区を中心に整備活動を行う。

◇活動日 第2・第4木曜日

◇人数 38名

◇活動区域 森林公園植物園内（8.2ha）のB地区

◇年間目標

- ① 整備予定地区の植生調査、除伐作業、希少植物保護。
- ② 安全作業マニュアルの遵守。
- ③ 整備技術の向上・安全知識の学習など森林整備人材の育成を目指す。
- ④ 観察会・懇親会等を開催し、科員の親睦を図る。

■瀬戸里山整備科

◇担当 3名

◇実施日 第3土曜日、但し雨天の場合は、予備日第4土曜日

◇登録者 23名

◇活動場所 瀬戸市曾野町

◇活動目標

- ① 竹林・雑木林に対する理解を深める。（学習会を計画する。）
- ② 竹林・雑木林整備の基礎的な技術の向上を図る。（オンザ・ジョブトレーニング等）
- ③ 安全第一で整備活動を行う。
- ④ 学園祭への出展を、科の取り組みとする。

⑥その他目標を達成するために必要な事業

該当事業計画なし

平成28年度収支予算計画

(平成28年4月1日から平成29年3月31日)

(単位:円)

科目	金額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	145,000		
利用会員受取会費	1,122,000	1,267,000	
2. 受取寄付金			
受け取り寄付金	400,000	400,000	
3. 受取助成金収入			
受け取り助成金	500,000	500,000	
4. 事業収入			
自然活動リーダー養成講座授業収益	9,596,000		
普及啓発事業収益	350,000		
調査研究事業収益	0		
政策についての企画提案事業収益	0		
自然活環境保全事業収益	0		
その他目的達成するための事業収益」		9,946,000	
5. その他収益			
雑収入	0		
受取利息	2,000	2,000	
経常収益計			12,115,000
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	3,600,000		
通勤手当	150,000		
法定福利費	600,000		
人件費計	4,350,000		
(2) その他経費			
謝礼金	1,700,000		
教材費	350,000		
会場費	500,000		
広報費	600,000		
リーフレット代	370,000		
講師交通費	100,000		
スタッフ交通費	1,900,000		
消耗品費	1,020,000		
雑費	100,000		
家賃	600,000		
接待交際費	40,000		
光熱費	130,000		
コピー維持費	100,000		
保険料	400,000		
通信運搬費費	700,000		
諸会費	50,000		
その他経費計	8,660,000		
事業費計		13,010,000	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	170,000		
人件費計	170,000		
(2) その他の経費			
旅費交通費	0		
事務用品費	27,000		
租税公課	300,000		
支払手数料	70,000		
雑費	38,000		
その他経費計	435,000		
管理費計		605,000	
経常費用計			13,615,000
当期経常増減額			▲ 1,500,000
III 経常外収益			0
IV 経常外費用			0
当期正味財産増減額			▲ 1,500,000
前期繰越正味財産額			7,716,457
次期繰越正味財産額			6,216,457

＜第5号議案＞
平成28年度役員選任

平成28年度の役員として下記の方を選任致します。

平成28年度役員

- ・ 代表理事 横井 進
- ・ 筆頭理事 大熊 琢巳
- ・ 理事 上田 元己
- ・ 理事 古田 雅子
- ・ 理事 浅井 留美子
- ・ 理事 小田 光生
- ・ 理事 吉村 至衛
- ・ 理事 水野 茂明
- ・ 理事 伊藤 準二
- ・ 理事 福岡 潔
- ・ 監事 藤田 昌大

その他報告事項

上記役員以外の平成28年度正会員

- ◆ 朝田 泰（七期生）
- ◆ 佐合 ひとみ（七期生）
- ◆ 浅井 昭枝（八期生）
- ◆ 安田 早苗（八期生）
- ◆ 吉田 誠司（八期生）
- ◆ 井土 清司（九期生）
- ◆ 高島 裕美子（九期生）
- ◆ 葉山 裕三（九期生）
- ◆ 石川 明博（十期生）
- ◆ 札幌 真理子（十期生）
- ◆ 藤原 純子（十期生）
- ◆ 森下 保男（十期生）
- ◆ 岩田 敏子（十一期生）
- ◆ 胡内 友文（十一期生）
- ◆ 近藤 典子（十一期生）
- ◆ 園田 信五（十一期生）
- ◆ 中野 治男（十一期生）
- ◆ 吉川 卷子（十一期生）